

# OPPA を活用した高校英語の授業改善に関する研究

## －高校1年「関係詞」の単元を事例にして－

A Study on the Improvement of High School English Teaching Using OPPA:  
Based on the Analysis of OPP Sheets from First Grade Students  
during the Relative Clause Unit

谷戸 聡子\*      中島 雅子\*\*      堀 哲夫\*\*\*  
YATO Satoko      NAKAJIMA Masako      HORI Tetsuo

**要約：**一般に高校では、教師が生徒に教えるという講義形式の授業が中心となっている。英語も例外ではない。しかし、一方的な講義形式の授業の中では、生徒が学ぶ意味や必然性、自己効力感を感得することがむずかしい。その現状を改善するために、「教えない授業」に「OPPA(One Page Portfolio Assessment)<sup>1</sup>」を取り入れ、それを活用した実践を行った。そこで検証しようとした内容は以下の三点になる。第一は、生徒が間違いを肯定的に捉えることが可能になるかどうか。第二は、OPPAの活用が教師にとって「教えない授業」という未知の教授法を積極的に試みる推進力となり得るかどうか。第三は、教師が生徒の間違いに寛容になることにより、生徒の気づきを促進させる授業力の向上に波及効果があるかどうか。その結果、いずれに関してもそれが可能になることが明らかになった。

**キーワード：**高校英語、OPPシート、OPPA、教えない授業、生徒同士のエラー修正

## I はじめに

高校の英語教師は、熱意があるにもかかわらず、自分の教授法に自信が持てず、生徒の英語力向上に無力感を感じていることが多いように思う。今日、英語学習の要請は日に日に高まり、英語を習得したい学習者もさらに増加している。ちまたには高額な英語教材が氾濫し、民間英語学校も林立する。にもかかわらず決定的な学習方法は見いだせず、生徒には授業内容がなかなか定着しないため、熱心な教師ほど行き詰まり感を感じることもある。2008年改訂学習指導要領では、英語で授業を行う<sup>2</sup>、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる<sup>3</sup>、等教師自身の経験にない新しい教授法が提示されている。従来の講義訳読式の一斉授業に疑問を抱きつつも、なかなか新しい教授法に踏み出せないのは、一つは自分がそれまでに経験したことがないこと、もう一つはそれまでに受けてきた教育の中でその効果を実感したことがないことが原因ではないだろうか。

そこで、本研究では、OPPシート(One Page Portfolio Sheet)を授業に導入してみた。その理由は、生徒に書かせた学習履歴を利用することで、自分の試した指導法の率直な評価を生徒から授業直後に得ることができ、これで良い、という確認ができることが、新たな指導法を取り入れる動機付けになるのではないかと考えたからである。教師も肯定してもらうことで、新しいチャレンジへの推進力を得ることができると考えられる。OPPシートの利用により、行き詰まった指導法への打開策が開かれることをこの研究を通して確認したい。

\*1 山梨県立甲府南高等学校 \*\* 山梨県立甲府城西高等学校 \*\*\* 大学院教育学研究科教育実践創成専攻

また、生徒の立場から考えてみると、外国語学習に必要なことは、間違いを恐れず対象言語を使うことである。日本人が外国語（英語）を学習する際には「間違い」は必然であり、間違いを修正していくことによって自ら学ぶ学習者となる。しかしながら、多くの生徒は授業中、人前で間違えることを嫌い、沈黙を守り、反応しない。教師は、わかっているのかわかっていないのか判断に苦しむ。他方、生徒の中には、本当はわかっているのにわかっているつもりのものもある。間違いを否定し、自分の理解度を客観的に受け止めることができないと真の学力獲得は望めない。そのような生徒の実態を踏まえた授業を考えることが重要である。言い換えると、「結果に基づいて教育活動に反省を加えて、より優れた成果を生み出そうとすること」という評価観<sup>4</sup>に基づいた授業を実施することにより、学習内容の適切な習得が進むと考えられる。

本研究では、あえて最初から「教えない授業」を実践してみた。具体的には、生徒同士のエラー修正（peer correction）を行う方法を導入し、その実態を OPP シートにより確認し、教師が学習内容にフィードバックを行ってみた。それは、生徒が間違いを好意的に受け止め、前向きに修正していかどうかの過程を分析したいからである。

高校英語授業における OPP シートを活用した実践報告はほとんどない。しかし、高校英語においても OPP シートの利用が有効であることを以下の点から実証したい。一つめは、生徒が OPP シートに学習履歴等を記入し、教師がそれに適切にフィードバックを行うことで生徒が自分の初期の理解度の不適切さを認識し、最終的に達成感を得ることができることである。二つめは、生徒の記述が授業後すぐに教師にもフィードバックされるため、授業改善に向けた授業デザインが容易になり、従って新たな教授法の試行に積極的になれるという波及効果があることである。

## II 研究の目的

本研究の目的は以下の3点にある。

1. 高校英語授業において OPP シートを活用することで、生徒が自らの間違いや理解が不適切な点を肯定的に自覚でき、寛容になれるかどうか検討する。また、その状態が学習を通して解消されていく過程で、自己効力感を味わい、達成感を得られたかどうか検討する。
2. OPP シートを活用することにより、教師が試みた指導法が効果を上げているか、生徒からの授業評価が教師の指導方法の行き詰まりを打開し、新たな指導法を試みる推進力となるかどうか、また、シートの記述から生徒の疑問点や要望を読み取ることにより、授業改善につなげていかどうか、検討する。
3. OPP シートの活用により引き起こされた自己変容は、生徒のみならず教師にもあてはまるかどうか検討する。教師が間違いに寛容になり誤答に関心を深めることが授業改善及び授業力向上にどのように影響するかあわせて検討する。

## III 研究の方法

1. 調査対象 山梨県立K高等学校普通科1年生 40人×3クラス 計120名
2. 調査期間 平成22年8月17日～8月24日
3. 調査方法

(1) 「教えない授業」と「話し合いの中で問題解決する過程」の組み込み

本研究は、学習初期に生徒の理解度が低いことを明確にする必要があるので、授業方法を工夫し、最初に情報を与えないで自力で問題解決に取り組みせ（「教えない授業」）、その後、仲間

との話し合いの中で問題解決する過程 (peer correction) を組み込むという方法を導入する。

(2) 「教えない授業」の具体的方法

K 高等学校 1 年生の夏季授業において「関係詞」について、最初に説明はせず、生徒の自力による予習を中心とした授業にペアワークやグループワークでの仲間同士のエラー修正を組み合わせ、生徒の疑問点や不明点が明確に浮かび上がるように構成した。つまり、先に説明して問題演習をする従来の講義形式ではなく、生徒本人や仲間同士での学習の後で、疑問点や重要事項について説明を行う方式をとった。また、できるだけ間違えないように演習問題に取り組むのではなく、間違いを恐れず、自分で参考書や辞書を手がかりに予習してくるよう促した。

(3) OPP シートの活用

OPP シート (後述) は、(1) 学習前の「関係詞」についての事前知識、(2) 毎回の授業における本時の最重要事項、疑問点、及び感想、(3) 単元終了時の学習後の「関係詞」についての再記述、(4) 学習前・中・後を振り返っての自己変容について、を記述させるように作成した。毎回の 50 分授業の中で OPP シートを記述する時間を 5 分程度確保し、「関係代名詞」「前置詞＋関係代名詞」「関係副詞」「非制限用法」「先行詞を含む関係代名詞」について合計 6 時間の授業を行った。

(4) 「話し合いの中で問題解決する過程」の概要

授業中はペアワークまたはグループワークを観察・巡回する中で疑問や誤答を抽出し、解説することで、全体で共有できるように努めた。また、OPP シートは、毎時間回収し、記述内容に下線やコメントをつけるなどして次の授業で返却した。OPP シートの記述を確認することで、生徒の自分の間違いに対する捉え方や、疑問が解消されていく達成感、理解度、を検討した。また、同じく OPP シートの記述から教師の授業に対する評価と見られる記述を抽出し、今回の授業方法についての生徒からの評価を授業改善に生かせるか検討した。

## IV 授業で使った OPP シート

### 1 OPP シートのねらい

本授業で用いた OPP シートは、その構成要素を「学習前・後における学習単元の把握に関する問い」「学習履歴 (学習の記録)」「自己評価」「授業評価」「(教員からの) 他者評価」を含むとした。それぞれの構成要素に対し、生徒が思考しながら学習履歴を記述していくことで、自分の現在の理解度の客観的評価ができるようになることをねらいとしている。毎時間学習履歴にまとめられている自己を振り返ることができるため、自己変容の過程を可視化できる。生徒は自己の学習履歴を記述しながら自己評価しているのと同時に無意識のうちに授業評価をしていることになる。

このため、教師は自分の授業の軌道修正を行う手立てに用いることができる。また、毎時間コメント等をつけて返却することで、大規模集団授業の中で個別対応ができる。それにより生徒との心理的距離を縮め、間接的コミュニケーションをとることができるため、授業中には埋没してしまう内気な生徒からも真情を吐露する記述を引き出すことができる。従って教員に対する授業評価も腹藏ない意見として受け止めてよいと判断できる。

## 2 OPP シートの内容

実際に用いた OPP シートは B 4 一枚の用紙の表面に印刷したものである。図 1 は生徒が実際に記入した OPP シートである。

## 3 OPP シートの構成要素

今回使用した OPP シートの構成要素は以下の 3 点からなる。

### (1) 学習前・後における学習単元の把握に関する問い

図 1 中の「(学習前) 関係詞はということだと思いますか。」「(学習後) 関係詞はということだと思いますか。」の欄。学習前の既有知識および認識と学習後の理解度および到達度を比較する問いである。

### (2) 学習履歴 (学習の記録)

図 1 中の「この単元で一番重要だったことを書きましょう。」「疑問点や感想など何でもよいので自由に書いてください。」の欄。授業で何が分かったのか、何がわからなかったのかを毎時間記述する。自分の学習過程を自己評価する欄。ここで上がってきた質問や疑問を次の授業に反映させることで、授業の軌道修正ができ、さらに生徒の記述を「授業評価」として把握することができる。また、毎時間回収して目を通し、下線やコメントをつけて返却することにより教師からの「他者評価」も受け取ることができ、生徒の内省を促すことができる。

### (3) 自己評価

図 1 中の「君は何か変わったかな? 学習前・中・後を振り返ってみて、何が分かりましたか? また、今回の勉強を通してあなたは何がどのように変わりましたか? そのことについてあなたは どう思いますか? 感想でもかまいませんので自由に書いてください。」の欄。学習前に「わからない」という自覚が強いほど、最終的に理解に達したときの自己効力感が強く表現される欄である。

## V OPP シートを活用した英語授業について

### 1 OPP シートを活用した授業の具体的な学習内容

表 1 に OPP シートを活用した授業に用いた教材等を示した。

表 1 授業に用いた教材、学習項目、授業時数

教材	総合英語 be English Grammar 23 (いいずな書店) L17 ~ L19
学習項目	関係代名詞、前置詞+関係代名詞、関係副詞、関係代名詞の非制限用法
授業時数	50 分×6 回

次に実際に行った学習手順を表 2 に示す。

表 2 基本的な学習手順

1	あらかじめ予習により与えられた問題を自力で解いてくる。参考書や辞書の使用可。
2	ペアまたはグループを組み、相互に相手の解答を採点し話し合う。(正答を見ながら)
3	教師は机間巡視し、生徒がどこで間違えているかを調べ、説明が必要な項目を拾い上げる。個別に質問がある生徒に対応する。共有すべき質問には全体に向けても説明を行う。
4	毎時間授業の終わりに、授業で一番重要だったこと、疑問点や感想を OPP シートに記入する。

また、表 3 は全 6 時間の授業がどのように行われたか、を具体的に示したものである。

幸せになるための英語学習履歴表

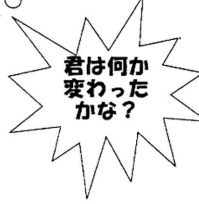
① 学習前  
関係詞とはどういうことだと思いますか？

2つの文を1つにまとめることができるもの

日付	この単元で一番重要だったことを書きましょう。	疑問点や感想など何でもよいので自由に書いてください。
① 8月17日	関係詞の <u>which, that</u> の使い分けがわからない。 <u>何の代わりに関係詞をおくのか</u>	関係詞 (は) 分かってるようど分かってないものだと「思うのど」しっかり身につくようにしたい。この <u>which</u> のついてる関係詞は、 <u>どういうものなのか</u> 。
② 8月18日	代名詞が何の代わりに置かれているのか分かれは、どの関係代名詞を使うか決まる。	今日の授業で、関係代名詞の使い方がよく分かった。自分の間違っている所が、なぜ違うのか理解できた。
③ 8月19日	前置詞のある文を、1つにするときは、絶対に、 <u>前置詞をとっておくこと</u> 。	<u>自分がどんなに分かっていくのが</u> わかったのど、もっとが「ん」は、ていきたい。
④ 8月20日	関係代名詞の目的格と前置詞がある場合は、 <u>前+目的格を前に持つ</u> か、 <u>目的格を前に持つ</u> か前置詞をのどおく2つの方法がある。	今回の授業では自分分かってたつもりだど、 <u>機械的にやるだけじゃあ</u> 、文をしっかりと理解してないとは「めだ」と分かった。
⑤ 8月23日	カンマのついてる関係詞は、 <u>文をつけたしている関係詞である</u> 。 <u>足</u>	カンマのついてる文のつくり方も「ん」が、分かってても、うまくできないのど、コツをつかめるようにしたい。
⑥ 8月24日	What は、先行詞のいらない関係代名詞である。	今まで、What は何となく置いていたど、どうやって置くのか、 <u>どういうものなのか</u> を理解できた。
⑦ 月 日		

② 学習後  
関係詞とはどういうことだと思いますか？

2つの文を1つにするだけじゃなく、意味も考えて作ることも大切である。



学習前・中・後を振り返ってみて、何がわかりましたか？また、今回の勉強を通してあなたは何がどのように変わりましたか？そのことについてあなたはどのように思いますか？感想でもかまいませんので自由に書いてください。

勉強する前は本当に機械的にやっていた「which」だど、今は意味や使い方もちゃんと理解して、使えるようになった。もっと完璧にできるようにこれからやっていきたい。

大進歩

図1 授業で使用した OPP シートと記入例 (女子: S.K.)

表3 授業の概要と OPP シートの記述 (全6時間の授業)

時限	学習項目	授業概要	OPP シートの記述時期と方法
1 時 限 目	学習項目	L17 関係詞 (1) who と which の使い方について。	
		あらかじめ自力で解いた L17~19 関係詞 (1) ~ (3) をペアで採点したあと、自信のない問題番号に印をつけ、ペア内またはグループ内で説明できるか試みた。 ただ空所に関係代名詞を入れることはできるが、2つの文を関係代名詞を用いて1つにする、という形式の問題でつまづいている生徒、また特に whose がわからない生徒が多かったため、次の授業で説明することを予告。	OPP シートの冒頭の質問「関係詞とは何だと思いますか」という問いに答える。  OPP シートに「本時の授業について一番重要だと思ったこと、と感想、疑問点」を記述する。
2 時 限 目		who, which の格変化と he, she など人称代名詞の格変化演習。 関係代名詞は名前通り代名詞であることを自覚させるため、人称代名詞、指示代名詞の格変化と関係代名詞の格変化を一覧表にして練習する。	
		英文を2つに分割し、関係代名詞の部分の人称代名詞に置き換え倒置する練習をする。(whose bag → his bag)	OPP シートに「本時の授業について一番重要だと思ったこと、と感想、疑問点」を記述する。
3 時 限 目	学習項目	L18 前置詞+関係代名詞	
		後半の英文中の関係代名詞を通常の代名詞に置き換え、前置詞とともに通常の英文の語順に並べかえる演習を行う。	OPP シートに「本時の授業について一番重要だと思ったこと、と感想、疑問点」を記述する。
4 時 限 目	学習項目	L18 関係副詞と前置詞+関係代名詞	
		関係代名詞を通常の代名詞で置き換え、後半の文を完成させる演習をすることにより、前置詞+代名詞は副詞の働きをしていることを理解させ、その部分を関係副詞でおきかえられることを理解させる。	OPP シートに「本時の授業について一番重要だと思ったこと、と感想、疑問点」を記述する。
5 時 限 目	学習項目	L19 関係詞の非制限用法	
		「,」がついている関係代名詞の非制限用法を説明し、前半と後半の文を分割し、関係代名詞を使わずに接続詞で構成する演習を行う。	OPP シートに「本時の授業について一番重要だと思ったこと、と感想、疑問点」を記述する。
6 時 限 目	学習項目	L19 what 先行詞を含む関係代名詞の用法	
		先行詞をふくむ what の説明ならびにこれまでの復習演習問題	OPP シートに「本時の授業について一番重要だと思ったこと、と感想、疑問点」を記述する。 OPP シートの学習履歴欄下部にある「関係詞とは何だと思いますか」という質問に答える。 OPP の最後の「君は何か変わったかな」という問いに答えて記述する。

## VI 本研究の結果と考察

### 1 生徒が間違いを肯定的に捉え、自己効力感を実感する過程について

OPP シートの学習履歴の記述 (この単元で一番重要だったこと、疑問点や感想) を1時限目から検討することで、以下の三点から分析、検討する。研究目的の第一にあげた、学習の初期に関係代名詞がどの程度わからなかったかという理解度の不十分さ、自分の間違いなどを自覚でき修正しようと肯定的に捉えているか、最終的に疑問が解消され達成感につながったかという点である。

#### (1) 学習前半における理解度の不適切性の自己認識に関する記述について

表4の(1)1時限目~3時限目の学習履歴の記述、および図2に示したように、授業の前半では、多くの生徒が関係詞について「(中学の既習事項だったので、または既習事項であるにもかかわらず) わかっていたつもりだったがわかっていなかった」という主旨の記述を正直にしている。

表4 OPP シート学習履歴欄の授業前半と後半の生徒記述の比較（記述内容は原文のまま）

生徒 No.	(1) 授業1～3時限目（前半）における学習履歴の記述	(2) 授業4～6時限目（後半）における学習履歴の記述
1 S.K.	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係詞の which, that の使い分けがわからない。何の代わりに関係詞をおくのか。関係詞は分かっているようで分からないものだと思うのでしっかり身につくようにしたい。カンマのついていない関係詞はどのようなものなのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がだんだんわかっていくのがわかったので、もっとがんばっていきたい。</li> <li>今回の授業では自分は分かっていたつもりだけど機械的にやるだけじゃだめで、文をしっかりと理解しないとだめだと分かった。</li> <li>今まで what は何となく置いていたけどどうやって置くのか、どういうものなのかを理解できた。</li> </ul>
2 D.H.	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の関係詞の弱さがよく分かった。家で予復習をしっかりしたい。</li> <li>問題を家でやってみて、自分の苦手さが確認できた。正直悲惨な感じなので、理解できるように努力をしていきたいと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちょっと自信がついてきた。この調子でがんばります！</li> <li>最初の時よりもかくだんにできるようになっている。</li> </ul>
3 A.F.	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係代名詞を使って文を書き換えることが全くできなかった。授業の終わりには全部できるようになりたい。that と which の違いがわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>what の前に名詞がこないことを初めて知った。前置詞の後ろには that を置いてはいけないなどルールがいっぱいあるけど、今日はすごく納得度が高かった。</li> <li>目的語を省略する文はできた。最後は what への置き換えもできた。たくさん間違えた分、理解度が高かった。</li> </ul>
4 K.F.	<ul style="list-style-type: none"> <li>who と whose と whom の使い分けがわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼ確実に理解できたかもしれない。たくさん問題をといて定着させたい。</li> <li>関係代名詞は理解できた。ここまで完ペキにわかった文法ははじめてだった。</li> </ul>
5 K.I.	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分にわかるのは「自分がなにもわからない」ということだけだ。（これを無知の知という）</li> <li>ええ、とても難しくてもわからない。わからないところがわからないと対策のしようがないんですわあ。（_）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>だんだんできてきた気がする。「気がする」を取れるようにがんばることよ。</li> <li>今日出てきた文は全てしっかりわかった。なんか、できると楽しいんですわあ・・・</li> </ul>
6 J.K.	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのとき、どのところで、どの関係代名詞を使えばいいのか分からなかった。</li> <li>高校の英語はそんなに甘くないと改めて感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係副詞のことをもっと知りたい。</li> <li>関係代名詞がだいたい分かってきて嬉しい</li> <li>だんだん分かるようになってきて調子が良い。</li> </ul>

疑問点や感想など何でもよいので自由に書いてください。

今まで関係代名詞はなにもなくやってきたので全然できませんでした。夏休み期間に理解できるようにしたいです。

図2 目的意識を明確にできた事例（生徒 A.N.）

自覚できていることが伺える。また、図3より、間違いを否定的に捉えるのではなく、反対に学習に役立てられると肯定的に受け止めていることがわかる。

疑問点や感想など何でもよいので自由に書いてください。

目的語を省略する文はできた。最後は what への置き換えもできた。たくさん間違えた分理解度が高かった。

図3 間違いと理解度を関連づけることができた事例（生徒 A.F.）

(2) 学習後半に自己の理解度が上がったことに対する自己効力感に関する記述について

表4の(2)4時限目～6時限目の学習履歴の記述、および図4、5の「自己評価」(君は何か変わったかな? 学習前・中・後を振り返ってみて何がわかりましたか?) 欄における記述を見ると、

曖昧な理解から本質的な理解につながり、自己効力感を実感していることが明らかである。

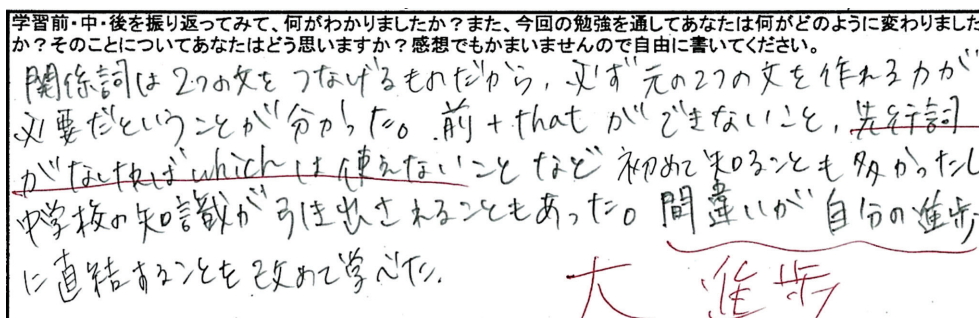


図4 学習成果から間違いを意味づけることができた事例（生徒 A.F.）

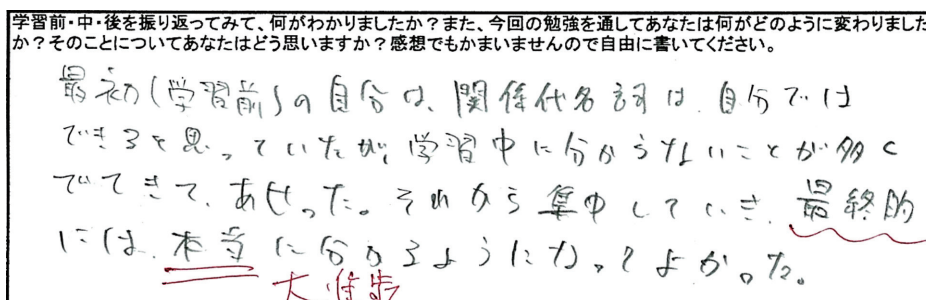


図5 不適切な実態を認識することから理解が深まっていった事例（生徒 J.A.）

## 2 OPPシートを活用することにより、生徒からの授業評価が教師の新たな指導法の試みへの推進力となるかどうか、について

教師が OPP シートに記入された授業に対する評価を毎時間読み取ることにより、新しい指導法を積極的に試みることができ、行き詰まり感のある従来の指導方法に打開策を与えてくれる可能性が見いだせるかどうか、次に検討する。

今回の授業では、OPP シートの学習履歴欄に生徒自身の理解度の浅いことが明確に自覚できるようにするため、授業方法に工夫を施した。つまり、生徒のつまずきが明らかになるように授業をデザインしたのである。具体的には、最初から「関係代名詞」について「講義」するのではなく、生徒に予習段階で自分なりに参考書や辞書等を使いながら、問題にあらかじめ取り組ませておき、授業ではペアやグループで採点し合い、話し合って回答を検討する。教師による解説は後で行う、という方法をとった。

2008 年改訂学習指導要領においてもペアワークやグループワークを推奨しているが、このような「講義形式でない、教えない」授業、ペアワークやグループワークは、授業を実施した教師（谷戸）自身、生徒および学生時代には経験していない、最近の新しい教授法である。従って、従来の講義形式訳読型授業に疑問を抱き打開策に頭を悩ませつつ、実際には自分の経験の枠内にない、効果を自分自身が実感した経験のないような授業法には二の足を踏む英語教師が多い。しかしながら、OPP シートの活用により、生徒からの率直な授業評価を得られるため、容易に授業に対する肯定感、安心感が得られ、また不具合が生じた場合には修正が施せることが明らかになった。

図6 の生徒の学習履歴欄記述を見ると、グループ活動に対する前向きな評価が見られる。間違いを恥ずかしいこと、やってはいけないこと、ととらえるのではなく、仲間も同じ間違いをすること知ること、間違いを肯定的に受け止めることができ、適切な学習が促進できると考えられる。生徒はほめられると強い動機付けを感じることができ、教師もまた、肯定的な評価をもらえれば自



信を持って授業をすることができる。図6はOPPシートにより、教師が新しい教授法にチャレンジになれることを示唆している。

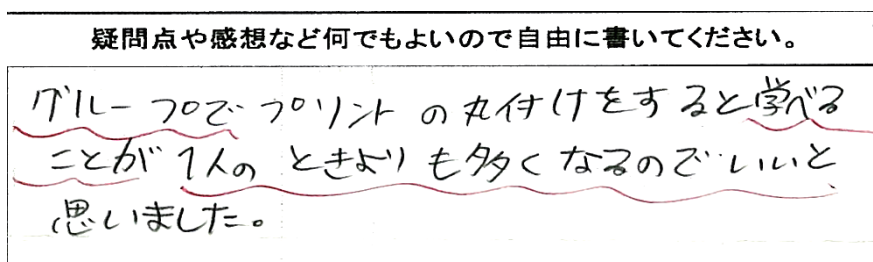


図6 グループ学習の意味を実感した事例（生徒 Y.T.）

### 3 OPPシートの活用により教師にも自己変容がもたらされることおよびその影響について

最後に、OPPシートを授業で使っていくうちに、生徒のみならず教師も変容していくことについて、また、そのことが授業改善及び授業力向上に及ぼす波及効果について考察したい。

生徒がOPPシートの活用により自己の成果が実感できるような過程を経て成長していく様子は本考察の1で述べたとおりである。生徒が変わっていくのと同時に、教師も変わっていくことを実感する。例えば、今までは間違いは犯してはならないものであり、人前で発言して間違えることは恥ずかしくていやなことだったが、実は仲間と間違いを共有し、間違いを素直にさらけ出すことで逆に学習が促進されることを生徒は体感し実践するようになる。正直なところ、教師にも、以前は間違いを犯すことは悪いことである、という認識が意識の根底にあったのではないか、と思われる。

しかし、教師が生徒の間違いを肯定的に捉えられるようになると様々な波及効果が現れることが予想される。授業者（谷戸）自身の例で見ると、生徒の間違いに寛容になるにつれ、誤答に興味関心が強く向けられるようになった。OPPシート以外の場面でも、誤答に敏感になり、特徴的な誤答を抽出して誤答分析を行うことにより誤答の原因究明に長けてきたと考えられる。

一例をあげると、日本人の英語学習における大きな障害は母国語である日本語の影響を強く受けるため、日本語に引きずられ英語の構造を無視することにある（表5参照）。

表5 日本語に干渉され英文の構造を無視する事例1<sup>5</sup>

問 題	“I don't know ( ) she is living now.” 空所に適語を入れる間接疑問文の問題
生徒誤答例	why(彼女がなぜ今リビングにいるのかわからない)
正 答	where (彼女が今どこで暮らしているのかわからない)

ある生徒の答に“why”という誤答があった。しかもその和訳は、「彼女が今なぜ生きているのか分からない」ではなく、「彼女がなぜ今リビング（ルーム）にいるのか、わからない。」だった。“living”を「リビング（日本語）」と思った瞬間、英語の構造を無視して日本語のリビング（ルーム）に当てはめて、無理矢理和訳をしてしまうような問題は日本語が干渉するつまりきとして初級学習者に頻繁に見られる（事例2参照<sup>6</sup>）。

表6 日本語に干渉され英文の構造を無視する事例2

問 題	“You may not smoke on the sidewalk in Sugunami-ku.” の和訳
生徒誤答例	杉並区の歩道はくもっていない。
正 答	杉並区の歩道では喫煙してはいけない。

表6は、英文の構造を無視して、“smoke”を煙という日本語の名詞でとらえてしまうことにより、無理矢理和訳をする例である。

しかしながら、誤答の原因を捉えられるようになると、誤答に導く授業デザインが可能になるため、OPPシートにより生徒の達成感をさらに高められ、教師の授業力向上につながると考えられる。このように生徒と教師の相互作用により、授業改善が行われるサイクルが自動的にでき上がっていくのである。

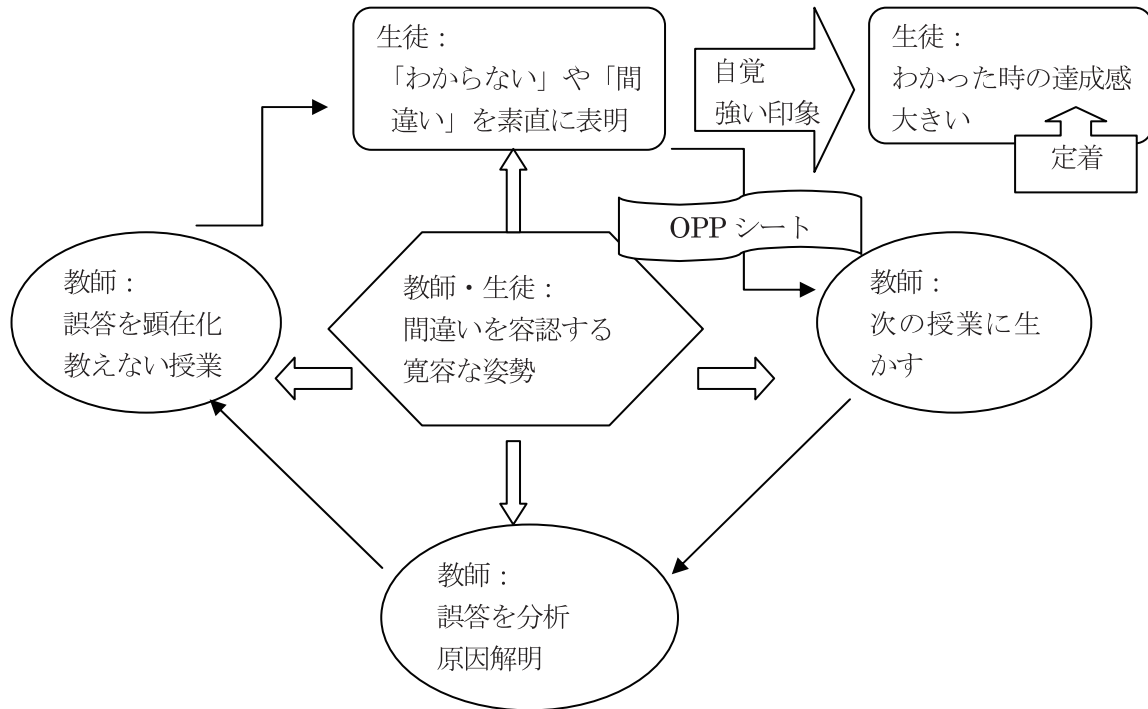


図7 OPPシートを利用した英語授業改善のサイクル

図7は、教えない授業を行い、生徒のグループ学習を活かすとともに自分の間違いに気づかせ、その学習活動の中でOPPシートの学習履歴を有効に活用することによって授業改善をはかっていくサイクルを示したものである。

## VII おわりに

本研究を通じて、高校英語授業でいくつかの新しい取り組み（「教えない授業」「生徒同士によるエラー修正」）を行い、OPPシートの生徒記述によりその効果をモニターした結果、生徒が学習当初に自分の理解度の不適切性を自覚でき、さらにそれを肯定的に受け止められることを検証した。また、自分の理解度を授業の度に把握した結果、学習終了時に本質的な理解に至った喜びを実感できる記述も得られた。これらの記述は何よりも教師にさらなる授業力向上への意欲を湧かせてくれる強い動機付けとなる。

“Don’t be afraid of making mistakes.”と生徒には言いつつ、失敗を恐れ、新しい指導法に取り組めなかったのは他ならぬ自分自身であったことに思い至ったこともOPPシートを用いた効果である。以後、心穏やかに授業を楽しめるのも生徒の誤答という鉱脈を掘り当てたからである。OPPシートの活用法には使用者の思いがけない側面を炙り出してくれる新たな可能性が期待できる。現場教師

が OPPA の実践事例を今後も多く蓄積し、ベテラン教師だけが感覚的に保持していた経験則を若い教師とも容易に共有できる環境を整えることが求められている。

最後に、多くの現場教師が OPPA の導入をためらう理由の一つに生徒のシートを毎時間回収してコメントをつけるのに時間がかかる、という懸念がある。日々忙殺される中、そのような時間が捻出できないのではないかと、という危惧は大きい。しかし、始めてみると、生徒の OPP シートを回収し記述を読むことはいつの間にか最優先事項となる。記述を早く読みたい、という強い気持ちに駆られるのである。従って、どんなに忙しくても OPP シートを見ることは苦にならない。繰り返すが、教師にこそ、失敗を恐れず挑戦してみることが必要である。

新しい教授法をまずは試みるのが肝要であると考えられる。

---

## 附記

本研究は、下記の分担により行われた。研究の企画は谷戸、中島が、OPP シートの骨子は堀が作成、中島が加筆修正した。実際に使用した OPP シートの作成と授業実施は谷戸が行った。谷戸が執筆した論文に中島と堀が加筆修正した。

(註)

<sup>1</sup>OPPA については、以下の文献を参照されたい。

堀 哲夫『学びの意味を育てる理科の教育評価』東洋館出版社、2003

堀 哲夫「学習履歴を中心にした大学の授業改善に関する研究－OPPA を中心にして－」『教育実践学研究』No.14、2009

堀 哲夫編著『子どもの学びを育む一枚ポートフォリオ評価：理科』日本標準、2004

<sup>2</sup>2008 年改訂学習指導要領

<sup>3</sup>2008 年改訂学習指導要領

<sup>4</sup>田中耕治『新しい「評価のあり方」を拓く－「目標に準拠した評価」のこれまでとこれから－』日本標準、p. 10、2010

<sup>5</sup>授業中の机間巡視により発見された生徒の誤答例による。

<sup>6</sup>授業中の机間巡視により発見された生徒の誤答例による。